

海外出張報告書

2013 年 3 月 25 日提出

氏名	丸山 隼輝
所属	人獣共通感染症リサーチセンター国際疫学部門
学年	博士課程 1 年
出張先	テキサス大学ガルベストン校（医、The University of Texas Medical Branch(UTMB)）
出張期間	2013 年 2 月 24 日～3 月 1 日
目的	UTMB 内にある BSL4 施設の見学および感染症研究についての議論

活動内容

リーディングプログラムによって支援される海外インターンシップ候補先の検索および稼働しているバイオセキュリティレベル 4 (BSL4) 施設の見学のためテキサス大学医学部ガルベストン校 (UTMB) を訪問した。UTMB はテキサス州のヒューストン近郊にあるガルベストン島に位置し、医学部のみで広大な敷地を有している。また感染症の研究も盛んであり、大きな BSL3 および BSL4 施設が稼働している。



図 1. ガルベストンへと向かう道中

ジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル空港からガルベストンへは車を利用した。島は大きな橋で連絡されている。



図 2. 訪問した UTMB の病理学部門

入室するには厳重なセキュリティを超える必要がある。

UTMB では当学公衆衛生学教室の好井助教の UTMB 時代の同僚である Dr. Alexander N. Freiberg に施設の案内をしていただいた。特に施設内の様子をカメラに収めることは出来なかつ

たが、BSL4 施設のバッファージョーンの見学は非常に興味深く、実際に目にすることが出来たのは良い経験となった。また BSL3・4 のトレーニングおよび施設管理をしているセクションの人々に実際に BSL4 施設に入室して実験ができるようになるための諸手続きや、トレーニング期間についても詳しい話を聞くことが出来、実際にインターンシップや卒業後にポストドクとして行った場合のシミュレーションになった。



図 3. 実際に BSL4 のトレーニングに使用する BSL4 スーツ

BSL4 スーツは重く、これを着用しながら長時間作業することの苦労を想像することは容易であった。

さらに UTMB では Dr. Alexander Freiberg だけでなく Dr. Alan Barrett、Dr. Slobodan Paessler、Dr. Alexander Bukreyev、Dr. Tetsuro Ikegami および Dr. Shinji Makino にお会いすることが出来、自分の大学院での研究内容を紹介しディスカッションした。特に Dr. Alexander Bukreyev は自分と同じフィロウイルスについての研究をしており、興味を持ってもらうことが出来たと思う。



図 4. Dr. Shinji Makino とディスカッションの様子

今回 UTMB に訪問した大学院生全員が自らの研究をプレゼンした。

今回 UTMB を訪問したことで、海外のラボの規模の大きさを実感でき、複数の先生方とお会いすることが出来た。また UTMB では様々な国の出身の研究者が働いており、海外へと出て活躍することがごく当たり前になっているのだと感じた。Dr. Alexander Freiberg ラボのメンバーと食事した際には研究についての話をすることも出来、非常に有意義な時間であった。このような機会を作っていただいた公衆衛生学教室の好井助教およびリーディングプログラムに感謝したい。